

日時：平成 年 月 日()第 校時
場所：4年教室
授業者：
児童数：男 名、女 名

1 単元名

[音読げきをしよう]

教材名：「白いぼうし」 あまんきみこ

2 指導の立場

(1) 子どもの実態

本学級は、低学年のころから本に親しんでいる子どもが多く、毎朝、図書室の本を借りることが習慣になっている。また、「たけのこ読み」を通して音読に親しみ、大きな声で発言しようとする意識の高い子どもが多い学級である。

本単元は、4年生になって初めて出会う、ファンタジーと呼ばれる文学教材である。3年生時に、「海をかつとばせ」という、現実の生活の中に不思議な存在が入ってくるという教材を学習している。この教材で、正体不明の人物から影響を受けて、変わっていく主人公の様子やその時の気持ちを、たくさんの比喻表現を元に読み深めてきた経験がある。4年生では、それに加えて、色や香りの表現も手がかりにしながら、主人公の行動や会話をもとに、その人物像を捉え、不思議な存在の女の子との出会いの物語を楽しく読み進めたい。

(2) 本時の指導にあたって

【自分の考えをもつための指導方法の工夫】

形・大きさ・色などを表す言葉に着目させるために、第1時で、作者の工夫見つけをして交流しておき、本時に活かせるようにする。

【伝え合うための指導方法・指導形態の工夫】

本時学習する場面は長文であるため、一人読みで子どもが広範囲から読み取る可能性がある。すると、話し合いの視点を絞ることが出来にくい。そこで、一人読みの場面を限定する。それによって、課題に関わって着目する表現が共通となり、自分の意見と仲間の意見とを比べて考え、有効に話し合いができるように仕組む。

【ねらいに迫るため必然性のある指導方法の工夫】

肩をすばめてつつ立っていた主人公が、急いで車にもどる場面を動作化させた後で、深めの発問をすることで、逃がした蝶の代わりとして夏みかんを選んだ理由をより効果的に考えられるようにする。

3 本時の目標

松井さんの心内語や、行動、夏みかんを表す表現などから松井さんの気持ちを考えることを通して、自分にとって特別な夏みかんだから蝶の代わりにしたこと気付き、逃がしてしまった蝶の代わりに、白いぼうしの中に夏みかんを入れる松井さんの優しい心を読み取ることができる。

4 本時の展開

過程	過程の目標	主な学習活動	指導・援助 深めの発問 評価基準
つかむ	○前時の学習を振り返るとともに、本時の前半場面の展開をつかむことができる。 ○本時の学習課題をつかむことができる。	1 前時の学習を振り返る。 ・前時の学習から、夏みかんが松井さんにとって、田舎や母親を思い出す特別なものだということを確かめる。 2 本時の場面を確かめ、学習課題をつかむ。 ・松井さんが、白いぼうしの中の蝶を逃がしてしまう場面であることを確かめる。 男の子の白いぼうしに夏みかんを入れた松井さんの気持ちを考えよう。	・5分前音読をする。 ・掲示物をもとに、前時を振り返り、本時の学習内容を振り返る。 ・本時は、松井さんが、ぼうしが動かそうとして、もしろ蝶を逃がしてしまう場面設定であることをつかみ、帽子が車にひかれないようにという優しい気持ちから起こした行動だったことを確認する。
ふかめる	○表現に着目しながら、松井さんの気持ちを考えることができる。 ○蝶を逃がしたことを悔やみ、どうしたらよいかと考える松井さんの気持ちを考えることができる。 ○夏みかんを蝶の代わりにしようと思いついた松井さんの気持ちを考えることができる。	3 一人読みをする。(P11-L9～P12-L7) ・松井さんの心内語や、行動、夏みかんを表す表現などから、松井さんの気持ちを考える。 4 全体交流する。 ・しまった。もしろちょうがつかまえてあったのか。 ・まさか蝶が入っていたとは思わなかったなあ。 ・帽子をどけてあげようと思っただけなのに、蝶をにがしてしまったなあ。 ・きっと一生懸命捕まえたんだろうな。がっかりするだろうな。 ・捕まえたばかりの蝶がいなくなっていたら、男の子は悲しむだろう。どうしよう。 ・男の子が戻ってくるまでに何とかしなくては。 ・今持っているもので、蝶の代わりにあげられるものは何かなあ。 ・そうだ、いい考えがある。車に乗せてある夏みかんはどうだろう。 ・きっと、喜ぶぞ。 ・大きな夏みかんだから、蝶じゃなくても、許してもらえるかと思った。 ・見事な色の夏みかんだから喜んでくれるかなと考えた。 ・すっぱい、いいにおいがするおいしそうな夏みかんなのでいいかなと思った。 ・「あの夏みかん」と「夏みかん」を比べると、「あの」がある方が特別な感じがするの で、松井さんの田舎から送られてきた、松井さんにとって特別なものを、ごめんねという気持ちで入れたと分かる。	・第1次での学習を生かして、着目するとよい表現を示し、登場人物の心情を表す言葉に気付くようにする。 ・「かたをすばめて」から、「急いで車にもどりました」までの松井さんの行動を動作化することで、自分の失敗に困りつつも、いい考えを思いつく、松井さんの気持ちの変化を確かめる。 蝶の代わりとして、「なぜ夏みかんを使ったのか。」と問うことで、「あの夏みかん」という表現に立ち止まり、男の子が捕まえた特別な蝶の代わりに、自分にとって特別な夏みかんを差し出し、蝶を逃がした責任を取ろうとした松井さんの優しさをつかむようにする。
まとめる	○本時読み取ったことをまとめることができる。 ○松井さんの気持ちや様子を表す表現に気をつけて音読をすることができる。	5 本時のまとめをする。 ・「あの夏みかんです」から、小さな男の子が蝶の逃げたことを知ったらさぞ悲しむだろうと考えて、田舎から送られてきた特別な夏みかんを代わりにしたことが分かった。松井さんは、優しい人だなと思った。 6 まとめの音読をする。 ・「せっかくのえものがいなくなっていたら～」から、最後までを工夫して音読する。	文中の表現を使い、松井さんの気持ちについて分かったことや、それについての自分の感想を書いている。(読) ・松井さんの気持ちが表れるように、声の大きさや、速さ、間を工夫して読んでいる子を評価し広める。

5 国語科単元指導計画

(1) 単元の見え方

- 色や香りの表現の工夫に着目して情景を読むとともに、行動や会話から、人物の気持ちや性格を想像することができる。(Cウ)
- 人物の気持ちや性格が表れるように、読み方を考えて音読することができる。(Cア)

(2) 単元を貫く課題

- 松井さんの人柄を読み取り、場面の様子や松井さんの思いを想像しながら音読しよう。

(3) 単元指導計画 : 全(10)時間

時数	目 標	主な学習活動	評価規準
一 次 1	「白いぼうし」を読み、感想をもち、感想を交流することができる。	・範読を聞き、登場人物について思ったことと、作者のあまきみこが文を書くときに工夫していることを書く。 ・感想を交流し合う。	あらすじをとらえ、心に残った出来事や表現など、めあてにつながる感想を書いている。(読)
2	新出漢字や語句の意味を確認することができる。	・新出漢字を確認する。 ・語句の意味を辞典で調べる。	進んで言葉の意味を辞典で調べることができる。(関)
3	場面ごとに見出しを付け、あらすじをとらえるとともに、学習のめあてを作り、学習計画を立てることができる。 あまきみこのシリーズ作品を読んで、音読劇をすることを伝える。	・場面ごとに見出しを付け、あらすじをとらえる。 ・場面ごとに、読み取りたいことを確実にする。	初発の感想などをもとに、読みのめあてや解決方法を設定し、学習計画を立てている。 音読劇発表会への意欲をもっている。(関)
二 次 4	夏みかんをタクシーに乗せて車を走らせる松井さんの、田舎や母親へのあたたかい思いを読み取ることができる。	・紳士と松井さんとの会話の場面であることを確かめる。 ・松井さんが夏みかんを乗せている理由を考える。 ・松井さんの人柄や、仕事に対する思いを読み取る。 ・田舎や母親へのあたたかい思いを想像しながら音読する。	夏みかんをタクシーに乗せて走る松井さんの、田舎や母親へのあたたかい思いを読み取っている。(読)
5 本 時	松井さんの心内語や、行動、夏みかんを表す表現などから松井さんの気持ちを考えることを通して自分にとって特別な夏みかんだから蝶の代わりにしたことに気づき逃がしてしまった蝶の代わりに、白いぼうしの中に夏みかんを入れる松井さんの優しい心を読み取ることができる。	・ぼうしをどけようとして、蝶を逃がしてしまいう場面であることを確かめる。 ・蝶を逃がして弱り果て、夏みかんを代わりにすることを思いつく、松井さんの気持ちの変化を読み取る。 ・なぜ夏みかんを蝶の代わりにしたのか理由を考える。 ・男の子のことを考える松井さんの思いを想像しながら音読する。	大切な夏みかんを蝶の代わりに白いぼうしの中に入れる松井さんの優しさを読み取っている。(読)
6	車に乗ってきた不思議な女の子に対しても丁寧に応対する松井さんの、誰にでも親切な姿を読み取ることができる。	・車に乗ってきた女の子との会話の場面であることを確かめる。 ・女の子に急かされて、あわてて車を走らせた松井さんの気持ちを考える。 ・小さな女の子に対しても、丁寧に接する松井さんの人柄を考える。 ・不思議な女の子とのやり取りをする松井さんの思いを想像しながら音読する。	自分の仕事に対する真面目さや、誰に対しても親切に対応する松井さんの人柄を読み取っている。(読)

7	女の子は、どこへ行ったのか、想像を膨らませて楽しみながら読み、根拠となる言葉を見つけながら、自分なりの考えをもつことができる。	・車に乗せた女の子が、いなくなってしまう場面であることを確かめる。 ・女の子は蝶だとは書かれていないのに、そう感じる証拠を他の場面や松井さんの人柄と関連させながら話し合う。 ・場面の様子を想像しながら音読する。	女の子はどこから来てどこへ行ったのか、自分なりに理由をもち、考えをまとめている。(読)
三 次 8 9	音読劇発表会の準備をすることができる。	・シリーズ作品の中から、グループごとに作品を決める。 ・選んだ作品について、音読の時に気をつけて読みたいところをまとめる。 ・表現の仕方を工夫しながら、音読練習をする。	登場人物の行動や心情、場面の様子がよく分かるように音読しようとしている。(読)
10	音読劇発表会を行い、感想を交流することができる。	・音読や動きを、互いに聞き合ったり、見合ったりする。 ・感想の視点に沿って感想交流をする。	それぞれの作品の特徴やグループのよさを見つけている。(関)